

平成 28 年度 事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 清光園

《理事会》

回	期日	主な議決事項	出席者
1	平成 28 年 5 月 27 日（金）	①平成 27 年度事業報告について ②平成 27 年度決算報告について ③就業規則の一部改正について ④監事監査報告 ⑤理事長の実務状況報告 ⑥社会福祉法の改正について	理事 6 名 監事 1 名
2	平成 28 年 7 月 29 日（金）	①職員の紹介制度について ②デイサービス及びグループホームの運営について ③社会福祉法の改正について ④平成 28 年度第 1 四半期事業報告 ⑤理事長の実務状況報告 ⑥監事監査報告	理事 6 名 監事 1 名
3	平成 28 年 10 月 14 日（金）	①役員（理事・監事）及び評議員の選任について ②物品等の購入及び除排雪業務委託契約について ③有期契約職員就業規則の改正について ④慰労金について ⑤理事長の実務状況報告 ⑥組織体制と人事異動について ⑦平成 28 年度上半期事業報告	理事 6 名 監事 2 名
4	平成 28 年 11 月 18 日（金）	①理事長の選任について ②平成 28 年度上半期運営報告 ③理事長の実務状況報告 ④監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名
5	平成 28 年 12 月 22 日（木）	①定款の変更について	理事 7 名

		②評議員選任・解任委員会運営細則について ③評議員選任・解任委員について ④役員報酬等の支給の基準について ⑤入札結果報告	監事 2 名
6	平成 29 年 1 月 31 日 (火)	①役員報酬等の支給の基準について ②次期評議員候補者の推薦について ③給与規程の一部改正について ④評議員選任・解任委員の報酬等について ⑤入札結果報告 ⑥第 3 四半期事業報告 ⑦理事長の実務状況報告 ⑧監事監査報告	理事 6 名 監事 2 名
7	平成 29 年 3 月 24 日 (金)	①評議員会の開催について ②平成 29 年度事業計画について ③平成 29 年度資金収支予算について ④グループホームまどか就業規則の一部改正について ⑤入札結果報告 ⑥評議員選任・解任委員会～評議員の選任について ⑦理事長の実務状況報告	理事 6 名 監事 2 名

《評議員会》

回	期日	主な議決事項	出席者
1	平成 28 年 5 月 27 日 (金)	①平成 27 年度事業報告について ②平成 27 年度決算報告について ③監事監査報告 ④理事長の実務状況報告 ⑤社会福祉法の改正について	評議員 14 名 監事 1 名

2	平成 28 年 7 月 29 日 (金)	①職員の紹介制度について ②デイサービス及びグループホームの運営について ③社会福祉法の改正について ④平成 28 年度第 1 四半期事業報告 ⑤理事長の実務状況報告 ⑥監事監査報	評議員 13 名 監事 1 名
3	平成 28 年 11 月 18 日 (金)	①役員及び評議員の選任について ②平成 28 年度上半期運営報告 ③理事長の実務状況報告 ④監事監査報告	評議員 15 名 監事 2 名
4	平成 28 年 12 月 22 日 (木)	①定款の変更について	評議員 14 名 監事 2 名
5	平成 29 年 3 月 24 日 (金)	①平成 29 年度事業計画について ②平成 29 年度資金収支予算について ③理事会決議事項報告 ④評議員選任・解任委員会～評議員の選任について ⑤理事長の実務状況報告 ⑥監事監査報告	評議員 14 名 監事 2 名

《監事監査》

回	期日	主な監査実施項目	出席者
1	平成 28 年 5 月 27 日 (金)	①平成 27 年度各会計決算状況について ②預り金の管理状況について ③会計監査・業務監査	監事 2 名
2	平成 28 年 7 月 29 日 (金)	①平成 28 年度 4 月～6 月各会計決算状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名
3	平成 28 年 10 月 28 日 (金)	①平成 28 年度 7 月～9 月各会計決算状況について	監事 2 名

		②預り金の管理状況について	
4	平成 29 年 1 月 26 日 (木)	①平成 28 年度 10 月～12 月各会計決算状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名

《社会福祉施設に係る指導監査及び実地指導等》

期日	主な検査項目	出席者
平成 28 年 6 月 6 日 (GH) 平成 28 年 6 月 10 日 (陽光・デイ) 平成 28 年 6 月 14 日 (特養) 平成 28 年 6 月 14 日 (危険物取扱施設)	消防立入検査…指摘事項なし	防火管理責任者 施設管理係長 危険物取扱責任者
平成 28 年 6 月 16 日 (木)	地域密着型通所介護実地指導 (夕張市) …指摘事項なし	理事長 施設長 管理者 相談員
平成 28 年 9 月 15 日 (木)	全国健康保険協会管掌健康保険及び厚生年金保険被保険者の資格及び報酬等の調査 (日本年金機構 岩見沢年金事務所) 【指 導】 本来は、給与改定後の 5 月支給分から 7 月支給分の 3 ヶ月間の支払額で月額変更届を提出する必要があるが、4 月支給分から 6 月支給分の 3 ヶ月間で月額変更届が提出されている。その結果、25 名の保険料に差額が生じているので、速やかに月額変更届を提出してほしい。 【対 応】 対象者 25 名の月額変更届を提出。対象者 25 名に説明、謝罪をし、差額分を 10 月支給分で調整をした。	出納員

<<その他>>

福祉有償運送事業	利用者数…57名 利用回数…299回 乗車距離…17,677km（走行距離…21,616km） 運送収入…1,468,800円
地域貢献活動	(1) 認知症サポーター養成講座…4回（5/12、5/18、7/11、7/13） (2) 夕張高等学校インターシップ（介護福祉体験）…1名（6/1～6/2） (3) 地域住民向けの介護保険講座…1回（7/2） (4) 施設・備品の貸出…7/2
研修事業	(1) ユニットリーダー研修実習生受入…11名（5/30～6/17） " …11名（11/7～11/25） " …10名（1/30～2/17） (2) 北海道介護福祉学校実習生受入（2年生）…1名（5/12～6/28） " （1年生）…2名（9/26～）
サークル活動支援制度	(1) 野球サークル（メンバー17人）…94,980円 (2) フットサルサークル（メンバー10人）…159,000円 (3) ママチャリサークル（メンバー12人）…145,000円
修学資金貸付制度	新規修学資金貸付…4名 ①介護福祉士取得のための実務者研修受講料を2名の職員に貸付 ②栗山介護学校へ進学する夕張高校の生徒2名に貸付
参議院選挙～不在者投票	平成28年7月8日（金）13時…投票者53名
施設設備整備事業（修繕）	①各所防水工事…年度当初計画において、屋上・バルコニーの防水工事を予定。専門業者とも調整、精査した結果、老朽度合が部分的なものであり全面工事までの必要性が低い事から、部分補修工事を行う事とし、7月に施工実施 ②加圧給水ポンプ工事…9月施工実施。安定稼働中。 ③ボイラー系統オーバーホール…初度当初からの運用経過と設備メンテナンス長期計画と照らし

合わせ緊急性の高い部品、消耗の激しい部品等検討調整し、10月内施工実施。

④昇降機耐用年数超過整備…交換予定の部品等精査完了。受注生産部品でもあることから平成29年2月施工実施。

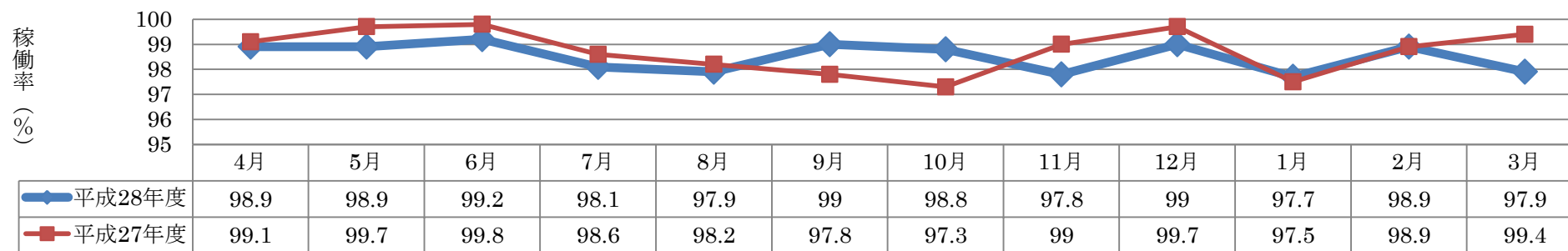
《資金収支状況と予算達成率》

(単位：円)

	収入の部		支出の部			
事業活動	《介護保険収入》	635,199,934	99.4%	《人件費支出》	375,227,186	96.2%
	《その他の事業収入》	19,945,276	103.5%	《事業費支出》	93,964,433	87.5%
	《経常経費寄付金収入》	363,000	85.8%	《事務費支出》	79,909,835	85.7%
	《受取利息配当金収入》	35,461	78.8%	《利用者負担軽減額》	6,537,343	151.7%
	《その他の収入》	9,504,498	186.9%	《支払利息支出》	7,561,344	89.3%
				《流動資産評価損等による資産減少額》	564	%
	計	665,048,169	100.1%	計	563,200,705	93.3%
	事業活動収支差額			101,847,464		
施設整備等	《施設整備等補助金収入》	1,620,000	18.9%	《設備資金借入金元金償還支出》	42,608,000	100.0%
				《固定資産取得支出》	8,921,156	89.7%
				《ファイナンス・リース債務の返却支出》	20,412	%
				《その他の施設整備等による支出》	0	%
	計	1,620,000	18.9%	計	51,549,568	63.2%
	施設整備等資金収支差額			▲49,929,568		
その他の活動				《長期貸付金支出》	3,082,400	94.1%
	《積立資産取崩収入》	7,727,490	%	《積立資産支出》	5,109,280	90.8%
	《拠点区分間繰入金収入》	14,329,000	195.5%	《拠点区分間繰入金支出》	14,329,000	195.5%
	《サービス区分間繰入金収入》	84,485,000	131.0%	《サービス区分間繰入金支出》	84,485,000	131.0%
	計	106,541,490	148.4%	計	107,005,680	132.6%
	その他の活動資金収支差額			▲464,190		
	当期資金収支差額合計		51,453,706			
	前期末支払資金残高		330,827,869			
	当期末支払資金残高		382,281,575			

《特別養護老人ホーム清光園》

稼働率（前年比）



	目標値	実績	達成率
施設介護料収入	374,130,000 円	369,594,003 円	98.8%
稼働率	98.50%	98.52%	100.0%
平均要介護度	—	3.84	—

■コメント欄（相談主任 佐藤宏泰）

《施設介護料収入》目標未達。目標値に対し△4,535,997 円(達成率△1.2%)。

《稼働率》目標達成。目標値に対し+0.02%(達成率 100.0%)。

【稼働状況】

・29名が退去し28名が入居。年間38,325床の稼働が可能であったが、計570床の空床が発生(稼働率98.52%)。空床のうち短期入所の空床利用として166床を稼働。よって実質404床の空床発生となっている(実質稼働率98.95%)。

・退去による空床発生から次の方が入居(稼働開始)するまでの日数は、短期入所の空床利用分の日数を除いて7.4日間となっている(目標値は7日以内)。

【増加要因】

・看取り介護加算(算定対象者1名につき、死亡日：12,800円/日、死亡日前2日間：6,800円/日、死亡日前27日間：1,440円/日)…年間目標件数8件(30日間×3名、3日間×5名=327,840円)に対し、17件(811,680円/平均17.8日間)と目標値に対して10件(483,840円)増となっている。

・経口維持加算Ⅰ(算定対象者1名につき4,000円/月)、同加算Ⅱ(同じく1,000円/月)…8月より算定開始。加算Ⅰ算定者：延29名(116,000円)、加算Ⅱ算定者：延8名(8,000円)。加算収入合計124,000円となっている。

【減少要因】

- ・20名が21回入院し、計302床の空床が発生。入院者のうち7名が契約解除となり、内6名が永眠。入院者のうち、退院後に再入居する予定で居室次の待機者へ回さずにいたが、見込みより入院期間が長引いた方が8名おり、それぞれの入院から再入居または契約解除までの日数が、23日・29日・31日・25日・17日・13日・16日・27日で、計181日間の入院期間となっている。なお、計20回の入院における1入院の平均日数は15.1日間となっている。
- ・認知症専門ケア加算…7/1～算定基準(配置人員)を満たせず、算定不可となる。年間予算804,825円に対し、627,435円の収入減となっている。
- ・看護体制加算Ⅱ…9/1～算定基準(配置人員)を満たせず、算定不可となる。年間予算3,020,010円に対し1,752,810円の収入減となっている。

【その他】

- ・日常生活継続支援加算(1人につき460円/日)は継続して算定できており、概ね予算通りの17,367,760円/年の収入を確保できている。
- ・平成29年3月末日時点での入居申込者は34名、入所判定委員会にて優先順位が確定されている方が14名、入居を保留または病気療養中等の方を除く実質待機者は9名であり、依然として減少傾向にある。

■平成28年度 事業計画ビジョン

理念に基づき、入居者一人ひとりの生活習慣や好みを尊重し、自分の住まいと思えるよう環境を整え、安心してそれまでの自律した生活が継続できるよう支援します。

■重点項目

(1) ユニットケアの推進 (介護相談係長)

- ・平成28年度ユニットリーダー研修に3名の職員が受講し、知識やユニットケアの手法を学び日々のケアに活かし、他の職員にも伝達し、ユニット内でのユニットケアの理解を深め、ユニットケアの推進を図った。
- ・ユニットケアの内部研修を7月と12月に開催し、ユニットリーダー研修に参加していない職員7名が参加し、ユニットケアの理解を深めた。
- ・ユニット内の自己点検は、各ユニットなかなか行うことができなかった。(平成29年度取組み中)
- ・平成28年度ユニットリーダー実地研修(全3回)に32名が清光園で実地研修を行った。研修生を受け入れることで、職員にとって良い刺激になり、また他施設のとの情報交換や仲間づくりを行うことができた。
- ・主任ミーティングやユニット会議でユニットの現状の課題を把握し共有した。

(2) 個別ケアの実践 (介護相談係長)

- ・個別支援計画については各ケアマネが中心となり、他職種協働で個々のニーズにこたえるよう作成している。また相談業務、現場フォローと相談ケアマネとしての役割も果たしている。

- ・フロア単位での業務や行事の協力体制が徐々にでき、個別に居酒屋、パチンコ、買い物、遠方への外出、ユニット内での入居者の調理など個々の意向に沿ったケアが増えてきている。
- ・サークル活動に関しては今年度から新しく地域ボランティアの協力を得て「頭の体操サークル」を実施、毎回 20 名前後の方々が参加し定着してきている。その他、ふれあい祭りでは編み物サークル、料理サークルが出店し、とても好評だった。
- ・ケアプラン・24H シートに基づいて、個別ケアの実践を行っている。入居者 1 人 1 人の生活習慣や嗜好は異なる為、それら把握し入居者 1 人 1 人に合った個別ケアを行っている。

また入居者の生活を支え、入居者 1 人 1 人の個別ケアを実践する中で、他職種との連携は欠かす事ができないが、他職種との連携も図れており、様々な職種で入居者 1 人 1 人の暮らしを支えることができている。

(3) 認知症ケア・重度化への対応 (介護相談係長 渡辺芳賢)

- ・認知症の技術的指導会議は月に一度定例で実施しているがメンバーの集まりが悪く、多くの意見を出し合い、検討できる環境ではないのが現状。また、ユニットリーダー会議をフロア単位にして報告会ではなく、入居者個々の情報共有や活発な意見交換が出来るようになってきているが、各フロアで運営する中 月 1 回の開催が出来ていないような現状もある。(平成 29 年度はリーダー会議はフロア単位から全体へ変更)
- ・重度化対応としては各ドクター、看護、歯科医師、相談、現場が協同し経口維持や機能訓練など取り組みを開始した反面、中堅職員の離職により 2 つの加算が取れなくなっている。ケアの質は落ちないように適切な排泄介助、適切な体位変換の方法等、各フロア単位での勉強会なども行っている。
- ・介護職員の負担軽減や効率化に向けては、排泄用品の見直しを行い 7 月から導入、また福祉用具、最新機器の導入検討も行なっている。
- ・10/に認知症実践者研修を 3 名受講することができ、認知症ケアについての理解がより深まった。

アセスメントツールでもある、ひもときシートは認知症の方の内的世界を知ろうとする視点に優れており、周辺症状がある入居者等のアセスメントの 1 つとして学ぶことができた。

- ・医療職との連携により、胃ろうや褥瘡等の重度の入居者の受け入れを行うことができている。

(平成 28 年度新規入居者平均介護度 4.1 平成 27 年度新規入居者平均介護 3.7)

- ・入居者の重度化に伴い介護職員の負担軽減に向けては、ナノミストバス等の福祉用具の導入を行っているが、なかなか使いこなせていない現状がある。(平成 29 年度に再度業者を招きナノミストバスの研修を行う。)

(4) 人材育成 (介護相談係長 渡辺芳賢)

- ・心身の仕組みの基本研修を 2 回 12 名が受講し計 11 名の職員が合格した。先輩受講者と共に業務後勉強会など自主的に行い努力したことが結果に繋がった。惜しくも合格できなかった職員も学んだことを業務に活かすことが出来ている。

- ・主任ユニットリーダーを中心として、ユニット職員に対して、介護技術やユニットケアの指導を行った。
- ・計画通り内部・外部研修に参加し、知識・技術の向上を図り、スキルアップを行っているが、研修で得た知識や技術を業務に反映しきれていないことが課題である。

(5) 活気ある職場づくり (介護相談係長 渡辺芳賢)

- ・フェイスブックについてはフロア毎の更新は出来ていないが、施設内での活動等こまめに上げ、回覧数もアップしており PR 効果が上がってきていると感じている。
 - ・ご意見ボックスは設置場所や内容を変更、今後の成果に期待する。
 - ・会議、ミーティング等小規模にすることで意見交換しやすくなっている。またベンチマークに関しては認知症ケア会議メンバーで 1 回目として GH まどかを行ない、認知症の方々が生活する場としての環境や設え等について意見を出し合った。今後も定期的に開催する。
- 職員のサークル活動について
- ・3つのサークルから活動支援金の申請があり審議委員会を通して決済が下り、ママチャリサークル・フットサルサークル・野球サークルが発足した。ママチャリサークルは2つの大会に、野球サークルは空知管内の4施設交流ソフトボール大会に参加、フットサルサークルは地道に活動を継続、仲間で積極的な休養を取ることで気分転換、ストレス解消、施設、職員間の横のつながりの強化に繋がっている。
 - ・10月以降フェイスブックの更新があまりできていないが、地域から信頼と興味を持っていただく情報の発信源として、フェイスブック等を効果的に活用し幅広く発信していく。
 - ・フットサルサークルは活動を継続、気分転換、ストレス解消、施設、職員間の横のつながりの強化に繋がっている。

(6) 地域ケアの実践 (介護相談係長 渡辺芳賢)

- ・地域ケア会議や夕張市生活支援・介護予防サービス協議体に毎回参加し地域の福祉ニーズの把握や地域課題の解決に向けて取り組んでいる。
- ・6/1.6/2 と今年度も夕張高等学校の生徒のインターシップを受け入れ、6月24日のインターシップ報告会でアドバイザーとしても参加し社会人になる為に必要なことや働くとは?について微弱ながら助言を行った。
- ・5/12 民生委員 5/18 郵便局員 7/11. 7/13 警察署を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、7/2には地域住民向けの認知症講座を開催した。夕張市は高齢化率が50%に迫る中で、厚生労働省の発表によるとおよそ65歳以上の7人1が認知症の可能性がある。夕張市は人口のおよそ半分が高齢者であり、そのうち7人1が認知症の疑いがあると考えれば、地域で認知症の方を支える町づくりが必要不可欠になる。地域で認知症の方を支えるには、今後もまずは「認知症の理解」について地域住民、企業、学校等に発信していきたい。現在南清水沢老人クラブの方が週1度の会合で利用されているが、今後は地域の方に幅広く利用していただけるように、改めて幅広く周知を行う。

- ・12/27 餅つきでは、南清水沢老人クラブ・消防職員がボランティアに来ていただき、餅つきを行った。また地域の方（1つの家族だが）も参加され、餅つきを楽しんでいた。
- ・コールリラなどへ練習や打ち合わせ等がある際は、地域交流センター等への場所の提供ができることをお伝えした。今後も幅広く周知できるように発信していく。
- ・1月以降デイサービスの空き部屋の活用として、南清水沢の老人クラブ以外に幼稚園の保護者が幼稚園の行事等の打ち合わせに利用した。
- ・地域のカラオケ愛好会やコールリラから場所の提供の相談があり、平成29年度から地域交流センター等の場所を提供していく。
- ・コミュニティカフェと地域の居場所作りについては、計画立案不足に伴い実地することができなかった。

(7) 苦情対応とリスクマネジメントの徹底（相談主任 佐藤宏泰）

- 苦情申し立て件数～4件（いずれも申出人は家族）。
- ・職員の連絡不足と職員の対応（誰に聞いてもわかりませんと言われた）により不信感を持たれた。
 - ・介護方法について（短期入所利用終了日の送迎時）
 - ・部屋に埃がたまっていた。（ベッドの下）
 - ・職員の家族への対応（言動等）を改めてほしい。
- ⇒いずれの件も問題点の改善を図ることで解決に至っており、再発防止策を徹底することで同様の申し出は発生していない。

(8) 社会資源の有効活用、稼働率 98.5%（相談主任 佐藤宏泰）

- ・各関係機関と情報の共有を行い、待機者確保に努めた。
 - ・上半期平均稼働率 98.7%。 平均介護度 3.79 上半期申込者数入居申込件数 12件
- ※空知管内の特養で待機者が不在で、夕張市在住の要介護者も空知管内の特養に入居されているケースがある為、当施設の待機者の状況等を小まめに確認する必要がある。また入居調整や入居キャンセル（永眠や医療ニーズ高い）により待機者が減少している為、幅広い関係機関と情報を共有し待機者の確保に努めていく。
- ・第3四半期平均稼働率 98.5%。 平均介護度 3.87 第3四半期入居申込件数 5件（内キャンセル2件）
- 次第に待機者が減少している為、幅広い関係機関と情報を共有し待機者の確保に努めていく。
- ・年間稼働率 98.5% 年間入居申込件数 28件（平成27年度入居申込件数 22件）

(9) 行事・サークル活動（介護相談係長 渡辺芳賢）

【行事】

4/8 6/13 8/19 ドックセラピー 2ヶ月に一度の定期開催

4/21 喫茶おさんぽ 今年度から定期開催、ご家族や地域の方々にも利用して頂こうという企画。まだまだ宣伝効果が少なく面会者や地域の方々の来店は少なかったが、セットメニュー100円での提供は好評だった。

4/22 下山民夫歌謡ショー 恒例の歌謡ショーで出演者とも顔なじみで楽しまれた。

5/27 カラオケ居酒屋笑満 今年度から定期開催、入居者はもちろん老人クラブの方々にも参加していただき楽しんだ。おつまみも好評だった
開催時間は夕食時間の利用が少なかったため、検討する。

5/31 移動販売（キャンディー）衣類を自分の目で見て手に取り選べるとも良い企画だった。今後も定期で開催していきたい。

6/4 夕張小学校運動会 雨の為中止

7/22 喫茶おさんぽ パンケーキセットを100円で提供 老人クラブ、職員、近所のお子さん、ご家族、職員など79名が利用した。

8/4 夜店、花火 駄菓子・甘酒・ジュースなどを用意し、入居者47名、ご家族、子供さんたちも一緒に楽しい時間を過ごした。

8/22 フィンランド学生受入 白金ユニットと一緒に白玉あんみつを作り入居者と交流、ユニットケアについても興味深く質問していた。

8/25 カラオケ居酒屋笑満 入居者34名が参加したくさんの方がマイクを持ち、カラオケを楽しんだ。

9/22 秋のふれ愛まつり 今年度は実行委員長、部門長たちが初めて経験する職員ばかりだったが、準備を重ね、経験ある職員が臨機応変に対応し、入居者の方たちにも事故なくスムーズに進行した。ボランティアの参加団体も今までになく多かった。
お天気にも恵まれ、出店の売り上げもまずまず、抽選券は600枚を売り上げ、大いに盛り上がった。

10/4 大正琴演奏会～フレンドリー08の代表中里様来園し懐メロを演奏される。

11/24 喫茶おさんぽ～入居者はロールケーキセットに舌鼓をされた。

11/30 清陵保育園児来園～歌と踊りの披露あり、入居者はとても喜ばれていた。

12/19 コールリラミニコンサート～コールリラ来園し歌を9曲披露され、入居者も一緒に口ずさまれた。

12/27 餅つき～消防職員3名、南清水沢老人クラブ5名のボランティアがあり、計10臼の餅をついた。
入居者の参加は27名。何名かの入居者は餅をつかれた。
(頭の体操教室講師役の福島様も餅つき行事に来園し、お孫様が餅をつかれ喜ばれていた。)

【サークル活動】

- ・映画サークル 毎月1回開催。釣りバカ日誌シリーズや必殺仕事人等を上映した。
- ・音楽サークル 隔週開催し音楽を聴いたり歌ったりと思えば思えば楽しんでいる。
- ・編み物サークル毎週火曜日開催。ふれ愛祭りには小物やストール、ベスト等出店。
- ・生け花サークル 6/23 9/14 12/14 3/15 4回開催 メンバー17名と前年度より3名増。生け花後はお茶会も開催し好評である

- ・料理サークル おにぎり、三平汁、きんぴらごぼう、切り干し大根を入居者と作り一緒に食した。
9/22 ふれ愛祭りにはおでんを出店、約 90 食を売り上げた。
- ・押し花教室 6/28・9/27・11/22・3/28 開催。カレンダーや年賀状作成を行った。
- ・頭の体操教室 月 2 回隔週で開催。講師は地域の住民の方で、発声、手の運動や文字や絵を書いたり皆さん楽しんで参加している

(10) 研修 (説明者: 介護相談係長 渡辺芳賢)

【内部研修】

4/5 理念研修	1 階地域交流センター	14 名参加	講師: 小田島施設長
4/22 薬の勉強会 (認知症)	1 階地域交流センター	12 名参加	講師: アイン薬局 山縣薬剤師
5/26/30 新人採用時研修	1 階家族室	1 名参加	講師: 施設長・副施設長・看護部長・管理係長・相談係長
6/10 新人職員フォローアップ研修	1 階家族室	4 名参加	講師: 佐藤副施設長
6/17 看取り介護研修	1 階会議室	13 名参加	講師: 松平看護部長
6/24 薬の勉強会 (糖尿病)	1 階地域交流センター	11 名参加	講師: アイン薬局 山縣薬剤師
7/15 ユニットケア研修	1 階会議室	名参加	講師: 渡辺相談係長
8/2 理念研修②	1 階会議室	21 名参加	講師: 小田島施設長
9/2 新人職員フォローアップ研修	1 階会議室	5 名参加	講師: 佐藤副施設長
9/16 薬の勉強会 (痛み)	1 階地域交流センター	8 名参加	講師: アイン薬局 山縣薬剤師
10/17 身体拘束について	講師 井上CM	参加人数 12 人	
10/18 認知症の理解について	講師 介護相談係長 渡辺	参加人数 11 人	
10/19 リスクマネジメントについて	講師小川CM	参加人数 16 人	
10/20 感染症について	講師 看護部長 松平	参加人数 13 人	
10/21 高齢者虐待について	講師 三ツ井CM	参加人数 12 人	
11/18 看取り介護内部研修	講師 相談主任 佐藤	参加人数 2 人	
11/22 ポジショニング研修	講師 エンゼル株式会社	参加人数 10 人	
12/16 ユニットケア勉強会	講師 介護相談係長 渡辺 芳賢	参加者人数 5 人	
2/9 防火について	講師 夕張市消防本部予防課予防課長 千葉恭久様	参加人数 25 人	

【外部講師による研修】

① 4/14.15 5/10.11 6/7,8,30 7/1 (8日間) ②7/21.22 8/18.19 9/5.6 9/29.30 (8日間)

心身の仕組みを活かした介護技術の基本研修 1階地域交流センター 6名参加 講師：日本福祉学院 山谷学院長

【外部研修】

5/16～18 ユニットリーダー研修 小田島 英憲・渡部 芳賢・工藤 苑愛 3名参加
5/28 北海道抑制廃止研究会 古城 夕香 1名参加
6/1 スキルアップ研修 初任者研修 渡部 美咲 1名参加
6/16 nick セミナー 接遇マナー 井上 明広 1名参加
6/28 個別部会 小田島英憲・佐藤 美加子 2名参加
7/1 相談員研修 佐藤 宏泰 1名参加
8/24～25 道社協新任介護職員研修 荒田 和美・前田 貴美香 2名参加
8/3 ～9/27(内 12日間)認知症リーダー研修 高泉 翔太 1名参加
8/26 複数事業連携研修 (接遇)
9/14 複数事業連携研修 (リーダー)
10/2 空知老人福祉施設協議会介護職員研修会 長谷川好子・鈴木正江・渡邊明 3名参加
10/12 介護技術フォローアップ研修 佐久間竜也・西川梨香・工藤苑愛 3名参加
10/13 空知管内第2回個別ケア部会研修会 佐藤美加子・鈴木聡 2名参加
10/17～10/19 認知症実践者研修 渡辺芳賢・佐久間竜也・西川梨香 3名参加
10/17～10/18 平成 28 年度食にかかわる職員のためのユニットケア研修 浦川智美 1名参加
10/25～10/27 ユニットリーダー研修 今野大介 1名参加
10/26～10/27 ユニットケア指導者養成研修 渡辺芳賢 1名参加
11/4 施設職員スキルアップ講習 高間綾乃 1名参加
11/11 空知管内介護支援専門員等部会研修会 小川弘平 1名参加
11/15～11/16 障害者職業生活相談員資格認定講座 小田島英憲 1名参加
11/16 認知症実践者研修 渡辺芳賢・佐久間竜也・西川梨香 3名参加
11/16 平成 28 年度苦情解決システム研修会 佐藤宏泰 1名参加
11/24～11/25 全国個室型推進協議会第 10 回全国研修大会 in 新潟 小田島英憲・今野大介・堀輝貴・佐久間竜也 4名参加

1/18～1/20 ユニットリーダー研修 鈴木聡 1名参加
 1/19～1/21 ユニットケア指導者養成研修 渡辺芳園 1名参加
 3/7 個別ケア部会研修会 小田島英憲・渡辺芳賢・佐藤美加子 3名参加
 3/16 空知老人福祉施設生活相談員等研修会 小川弘平 1名参加

(11) 会議・委員会

【経営会議】(施設長 小田島英憲)

回	期日	主な議決事項	出席者
1	H28.4.21 (木)	①平成 27 年度事業報告について ②サークル活動支援金制度要綱について ③就業規則の一部改正について ④安全衛生計画及び心の健康づくり計画について ⑤新人歓迎会について	理事長・施設長・副施設長・看護部長・管理係長・相談係長 管理者・主任
2	H28.7.14 (木)	①平成 28 年度第 1 四半期事業報告について ②職員紹介制度について ③組織体制について ④第 1 回社会福祉法人清光園理事長杯パークゴルフ大会について ⑤社会福祉法の改正について	理事長・施設長・副施設長・看護部長・管理係長・相談係長 管理者・主任
3	H28.10.13 (木)	①平成 28 年度上半期事業報告について ②物品等の購入及び除排雪業務委託契約について ③有契約職員就業規則の改正について	理事長・施設長・副施設長・看護部長・管理係長・相談係長 管理者・主任
4	H29.1.12 (木)	①平成 29 年度事業計画及び予算案について ②平成 28 年度第 3 四半期事業報告について	理事長・施設長・副施設長・看護部長・管理係長・相談係長 管理者・主任

【合同委員会】(相談主任 佐藤宏泰)

○事故防止・苦情解決委員会(主幹:介護支援専門員)

～4/5、5/10、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/7開催(月1回/年12回)。

内容:発生したヒヤリハット・事故・苦情の情報の共有と改善策・予防策などについての検討を行なう。

11/1開催の委員会にてヒヤリハット及び事故の区分を変更。平成22年11月1日更新の介護マニュアルに記載されている内容の区分となる。

累計発生件数:ヒヤリハット=85件 事故=84件(外部報告=12件) 苦情=4件

○身体拘束廃止委員会(主幹:介護支援専門員)～6/7、9/7、12/6、3/7開催(3か月毎/年4回)。

内容:同意を得ての身体拘束はなし。スピーチロックについて、現状確認と改善方法についての検討を継続して実施している。

○給食委員会(主幹:管理栄養士)～4/5、5/10、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/7開催

内容:利用者の意向や改善点などを確認し、給食の質の向上を図っている。

給食部門から月1回ユニット調理の日を設けてはどうか提案。まずは1月よりカレーライスの日に行うこととし、H29年度も年間予定を立てて、継続していく。

評価としては、ユニットで作る事によって音や香りを楽しめ、好みの味付けにもでき好評ではあったが、全面的にユニットでの調理となるので、人間的にも難しい所もあるので、他部署で協力しながら行う。

○褥瘡予防委員会(主幹:看護主任)～4/5、6/7、8/2、10/4、12/6、2/7開催

内容:各グループ(各ユニット)入居者の身体状況と、褥瘡予防ケア取り組み状況について検討する。

3/31現在 褥瘡有3名(内2名は入居時持ち込みで、現在ほぼ完治に近い状態まで改善している)

褥瘡発生高リスク入居者 39名(褥瘡予防ケア計画を立て実施中)

○感染予防委員会(主幹:看護主任)～4/5、6/7、8/2、10/4、12/7、2/7開催

内容:各グループ(各ユニット)の感染予防取り組み状況について。

感染標準予防対策の確認、食中毒予防対策の啓蒙、インフルエンザ予防対策、ノロウイルス対策及び嘔吐物処理方法研修の実施

今年度 食中毒警報 5月20日第1号～9月2日第15号まで、延べ日数 37日発令。

インフルエンザ予防接種 入居者 103名 職員 115名(委託業者含む)に10月末～11月末で実施

1月ショートステイの方が利用開始後にノロウイルスに罹患している事が明らかになったが、施設管理部門など多職種の協力で他の利用者に移ることなく治癒できたので、この対応を手順書として作成し、次年度以降も活用できるよう取り組んでいく。

	<p>○防災委員会（主幹：施設長）～7/5、11/1 開催 内容：7/19 火災避難訓練（日中想定）実施。次回 11/1 委員会開催し、11 月中に火災避難訓練（夜間想定）実施予定。 11/1 火災避難訓練（夜間想定）について協議。11/29 火災避難訓練（夜間想定）実施。 3/17 自然災害想定訓練（雪害による停電時のエレベーター閉じこもり）実施。</p> <p>【看取り介護委員会】（主任ユニットリーダー 竹田由香） ・看取り委員会 5/25・8/24・11/9・2/22 開催 看取りケア実施している方の状況報告と検討を行う 看取りケアの中で最期をむかえた方 17名。 看取り期間だけでなく、一日一日の日々の積み重ねを大切に、次年度も他職種連携し入居者さんのケアに取り組む。</p> <p>【認知症ケア委員会】（GH管理者 山崎まなみ） ・4/19 5/17 6/30 毎月開催 アンガーマネージメントを活用し認知症の方のイライラに対する対応や、GH のベンチマークを行い認知症の方々の生活環境等を検討した。</p> <p>【衛生委員会】（介護相談係長 渡辺芳賢） ① 心の健康づくり計画の周知について ②2F.3F 安全衛生パトロール実地 ③ストレスチェック制度実地規定の作成について ④ 9/26 健康診断実地 ⑤9/26 ストレスチェック実地（回収及び集計は日本健康倶楽部） 10/31.11/22.12/27 開催。 ① 2F.3F 安全パトロール実地 ②ストレスチェックの結果通知を対象職員宅へ郵送 ③職場安全衛生自主点検実地 1/24.2/28.3/28 開催。 ① 4F 安全パトロール実地 ②平成 29 年度安全衛生管理計画の策定 ③心の健康づくり計画の評価</p> <p>【研修委員会】（主任ユニットリーダー 佐藤美加子） 1 月 10 日委員会開催。今年度の研修評価及び、来年度の研修スケジュールの確認を行う。 今年度の内部研修参加人数が少なかった為、来年度は研修時間の追加や変更を行い参加率を高くすることを話し合う。 また、外部研修報告会を 11 月に実施出来なかった為、2 月に実施予定。</p> <p>【入所判定委員会】（相談主任 佐藤宏泰） 6/15 開催。申込者 12 名の入所判定を行ない、待機者順位を検討・確定する。待機者 30 名となる。 9/14 開催。申込者 4 名の入所判定を行ない、待機者順位を検討・確定する。待機者 18 名となる。</p>
--	---

	<p>12/14 開催。申込者 7 名の入所判定を行ない、待機者順位を検討・確定する。待機者 17 名となる。</p> <p>3/15 開催。申込者 5 名の入所判定を行ない、待機者順位を検討・確定する。待機者 12 名となる。</p>
	<p>【秋のふれ愛まつり委員会】（主任ユニットリーダー 下村一步）</p> <p>・ 9/22 開催。準備の段階から各部門長中心に取り組み、様々なイベントを用意しご入居者・ご家族も最後まで盛り上がり良い雰囲気の中無事終了する事ができた。来賓者 88 名 ボランティア 38 名 計 126 名の参加あり。</p>
	<p>（1 2）特養部門別事業報告</p> <p>【2 階介護フロア】（主任ユニットリーダー 下村一步）</p> <p>・ 暮らしの継続を目指す</p> <p>春から秋にかけて以前から通っていた居酒屋への外出を毎月開催する事が出来た。その他にも法事・墓参り・外食・買い物等、外出の機会が増えておりご入居者の楽しみに繋がった。次年度も外出などの希望があるので継続して実施していきたい。</p> <p>外出だけでなく食事会の実施やご入居者の楽しみに繋がる様に取り組んでいきたい。</p> <p>・ スタッフの働きやすい環境を目指す</p> <p>交流会の実施は少なく特定のスタッフとしか実施が出来ていない。その他スタッフに関しては日常会話の中で悩み等を聞き出すも実際に解決には至っていない。</p> <p>今後については各スタッフが抱えるストレスを軽減できるように業務改善や人員配置の部分に視点を置きながら取り組みが必要と感じた。</p> <p>【3 階介護フロア】（主任ユニットリーダー 佐藤美加子）</p> <p>・ 入居者の想いを形にできる支援ができるスタッフ育成</p> <p>各ユニットで、入居者の想いを叶える為勤務等工夫を行い、誕生日の外出やユニット調理にて食べたい物を提供したりと、色々な形で思い実現に取り組んだ。</p> <p>ご家族へその時の様子がわかるお手紙を送付するという計画がまだ実行できていない為、今年度中に作成しご家族へ送付できるよう取り組む</p> <p>【4 階介護フロア】（主任ユニットリーダー 竹田由香）</p> <p>● 生活の継続</p> <p>1 日 1 回、引継ぎなどで情報を共有し、ユニット・グループ・フロア・他職種の協力得て外出や食事会など行うことができた</p> <p>● サービスの質の向上（ユニットケアの向上）</p> <p>・ 内部研修など多く出席できなかったが、情報を共有し取り組むことができた</p>

・各ユニット、チェック項目 137 個を再チェック

項目の中で・訪室時のノック・居室の戸の開閉については、意識することは増えてきたが改善（出来ている）には至らない

・ユニット全体を見直し整理整頓を行う

⇒次年度も引き続き、生活しやすい環境づくりに取り組む

【看護課】（看護部長 松平壽枝）

※入居者の生活を支える看護・悪化予防を意識した看護提供

・清光園は慢性疾患を複数抱えている人や、認知症により自分の健康状態を表現することが困難な入居者も多いが、年々入居時より治療や処置が必要な、医療依存度の高い方が増えてきている。また短期入所利用する方も、病院を退院しても、連日医療処置が必要な状態や病状が安定していない為、常時観察が必要な状態の方が多くなった印象がある。

9 月以降看護職員の欠員で、フロア担当制が取れなくなり、ユニット内に居る時間を増やす対応が難しくなったが、介護スタッフからの情報など協力を得ることで、入居者の状態変化への対応を図る事ができた。

また健康障害を認めた時は、夕張市立診療所の協力（受診や往診等）を得て、できるだけ早期の回復を目指して対応にあたる事ができた。看護職員の補充はまだ出来ていないが、介護スタッフなど多職種と連携し、次年度も目標継続し取り組んでいきたい。

○年間入院件数 21 件

《大腿骨頸部骨折 5 件、貧血 1 件、菌血症 2 件、嚥下困難 1 件、外傷性クモ膜下血腫 1 件、子宮癌 1 件、心筋梗塞 1 件、急性腎不全 1 件
閉塞性動脈硬化症による足趾壊死 1 件、精神疾患 1 件、誤嚥性肺炎 2 件、直腸癌による腸閉塞 1 件、梗塞・痙攣等脳疾患 3 件》

○年間内科往診 113 件

○年間通院件数 152 件（内科 46 件、整形 47 件、循環器 15 件、精神科 14 件、脳外科 5 件、婦人科 6 件、泌尿器科 6 件、その他 13 件）

通院件数は 3 年前に大きく増加して以降ほぼ同数で推移しているが、往診件数は昨年度の 2 倍に増加している

※日常生活の延長にある看取りケア援助

・入居者に終末期の兆候が認められた時は、医師からインフォームド・コンセント行っていただくよう連絡調整行うと共に、多職種と連携しケアを行った。次年度も同様に身体的変化の情報提供含めて、情報共有を図りながらケアに取り組んでいく。

○今年度看取りケア受け亡くなられた方 17 名《老衰 14 名、胃癌 1 名、多発性脳梗塞・呼吸不全 1 名、腎不全 1 名》

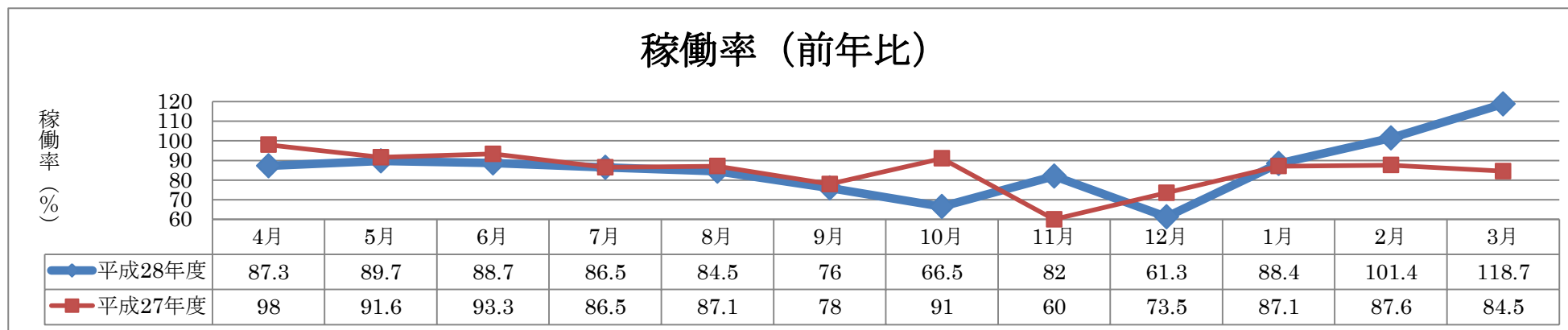
【栄養課】（管理栄養士 浦川智美）

・栄養ケア～担当者会議等で全身状態を含め評価し、必要時は栄養補助食品を付加したり、食事量の調整をしている。

・給食委員会の実施～4/5、5/10、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/7 実施

- ・行事食の提供～1年を通して祝日や創立記念日に変わりご飯等を提供し、四季を感じていただけるようにした。
- ・防災対策～年内で期限切れするもの試食会をできていないので、給食委員会等を利用してできるように。
- ・施設と厨房の連携～施設から厨房へ入居者の状態をこまめに報告し、食事変更等がスムーズに行えるようにしている。

《清光園短期入所生活介護》



	目標値	実績	達成率
居宅介護料収入	12,916,000 円	15,249,877 円	118.1%
平均稼働率	80.00%	85.9%	107.4%
平均介護度	—	2.88	—

■コメント欄（介護支援専門員 小川 弘平）

《居宅介護料収入》目標達成。目標値に対し+2,333,877 円(達成率+18.1%)。

《稼働率》目標達成。目標値に対し+5.9%(達成率+7.4%)。

【増加要因】

- ・第4四半期における新規利用者計8名。
- ・特養入居待機者による長期間の利用1件。
- ・緊急受入7件(1日辺り900円。27日分～24,300円)の増収。
- ・入居の空室を多く活用する事が出来た。計13件、94日間。

【減少要因】

- ・年初からの長期利用の方が1名特養に入居。同利用者に短期生活長期利用者提供減算適応 38 日間。1 日辺り 300 円。10,400 円の減収。
- ・8 月下旬及び 11 月下旬における長期利用者の特養入居により、翌月以降の稼働率が低下。

■平成 28 年度 事業計画ビジョン

■重点項目

(1) ADL,IADL の維持、向上を目的とした機能訓練の実施 (介護支援専門員 小川弘平)

- ・個々の状態に合わせた生活リハビリの提供を行っている。

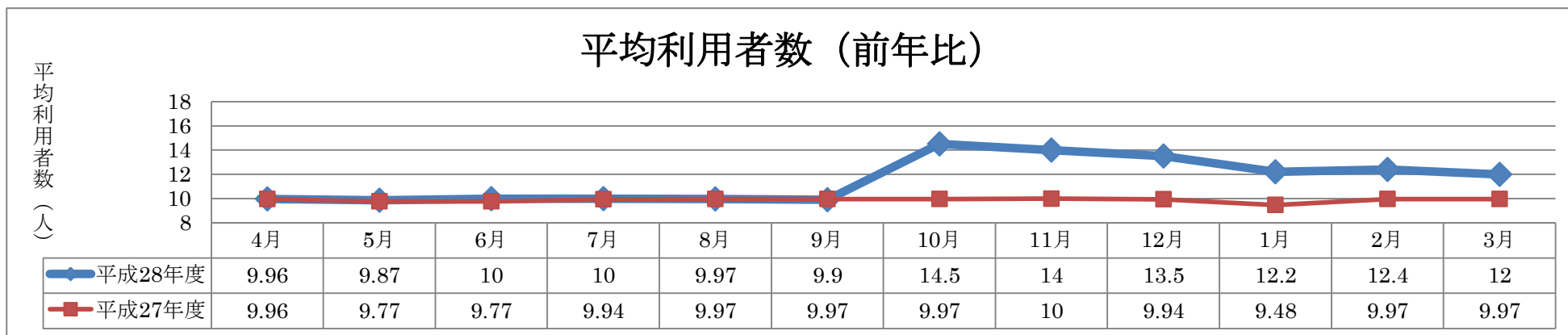
(2) 重度者への対応強化 (介護支援専門員 小川弘平)

- ・褥瘡の方や緊急度の高いケースの受け入れを、看護と連携を図りながら行っており、上記の通り緊急受入の件数が増加した。

(3) 稼働率 80%以上 (介護支援専門員 小川弘平)

- ・稼働目標は達成しているが、入居の空室を活用出来た為であり、定期利用者の獲得が必要な状況である。新規利用相談は変わらずあるが単発の利用であったり家族の所要の際の利用に留まるケースも多くあり、長期的な定期利用者を確保する事が課題となっている。引き続き市内各居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターとの連携、信頼関係の強化に努め、利用者の確保を行っていく。

《デイサービスセンターすずらん》



	目標値	実績	達成率
地域密着型介護料収入	24,007,000 円	21,137,822 円	88.0%
平均利用者数	12 人	11.5 人	96.0%

■コメント欄（在宅係長：佐々木 稔）

前期：7、8月はキャンセルも少なく安定して稼働出来ていたが、9月に入り利用中止者や入院者、体調不良等による利用キャンセルも増加したが、スポット利用を呼び掛ける事で概ね稼働を維持する事が出来た。

後期：10月より定員を18名に増員。職員体制維持により定休日を設け、週5日（土日休み）営業日に体制を変更。

夕張市包括支援係及び市内居宅介護支援事業所各所と情報交換、連携を密に行い在宅生活継続を第一の目的とした支援、介護サービスを展開。

重介護者（※入浴・施設内での活動可能な方）・看取りの方の受入れも実施。その事もあってか入院者や体調不良でお休みされる方も少なくなかった。

1月～3月に至っては、冬季施設一時入所される方、ショートステイ数増加なども後押しし、実利用数が減少した経緯。

■平成 28 年度 事業計画ビジョン

今年度より地域密着型通所介護（定員 18 名）へ移行することから、より地域に根ざした運営を行うとともに、サービスの質を高め、地域の方が安心して利用していただける場を提供します。

■重点項目

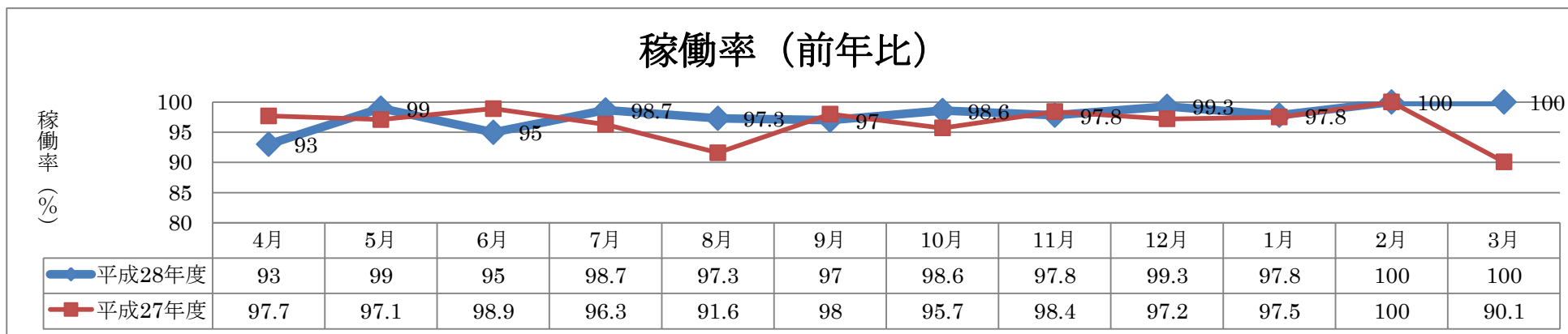
（1）稼働率 66%、1 日平均 12 名の稼働を目指す

- ・7、8 月に新規利用者 4 名を獲得したが、9 月に入り、利用中止 3 名、また長期入院者 2 名もあり、苦慮したが、随時食事会を開催したり行事を企画する事で維持を図った。
- ・10 月以降定員 18 名に増員した事でさらに受入れが可能。デイサービス内でお客様に合わせた介護サービスが提供できる体制になるが、定員 10 名の職員配置数と定員 18 名体制の職員配置数が同じである事で、サービス提供時間内に対応できる利用者数（特に入浴）にも限りが出てしまい、定員数に満たなくとも受入れが困難な状況が発生している。
特に、デイサービスセンターすずらんの時間個別利用のニーズが高く、市内・近隣・地域に「入浴サービスを受けたい」需要が非常に高い。希望曜日に空きが無くやむを得ず別事業所を選択されたケースもあった。

（2）地域との連携

- ・デイサービスセンターすずらん談話室の運用～空きスペースを開放し、①南清水沢老人クラブの定期会合 ②シルバー共同住宅陽光入居者のご家族又は地域からの面会など ③近隣のサークル等活動の会合
- ・ドッグセラピー、訪問販売等、陽光入居者に参加促し。デイサービスセンターすずらん営業時間内であっても陽光入居者が共同スペースを利用できるよう配慮。 デイサービス利用者・陽光入居者のカラオケ愛好者の集いの場として提供。
- ・運営推進会議を通じて、行政⇔サービス事業所⇔利用者⇔ご家族⇔地域住民との結びつきを深める。自由な意見交換の場。
①第 1 回運営推進会議～平成 28 年 8 月 25 日
②第 2 回運営推進会議～平成 29 年 2 月 23 日

《グループホームまどか》



	目標値	実績	達成率
地域密着型介護料収入	60,817,000 円	58,909,250 円	96.86%
平均稼働率	98.00%	97.4%	99.40%
平均介護度	—	2.56	—

■コメント欄（GH 管理者 山崎まなみ）

4～6月は長期入院1名、緊急入院4名、内2名の入居者が退所されている。

退去に伴い新規2名入居されており、調整は2週間程度で行なっているが、検査の為に入院した入居者1名が入院中に体調を崩されたり、転倒されたりと安定した状態ではなく数日単位での体調確認、退院調整となり目途がつかない状態となる。

ショートステイご希望の方もいたが入院日程が確実ではなく、ご利用につなげられなかった点が稼働低下の要因と考えられる。

【7月～9月】

7月、8月は1名の入居者様が2回（2週間と1週間）の入院をされたこと、9月には4日に看取りケア対応の方1名が永眠となり、その後の新規の調整に14日間かかってしまったことが稼働低下の要因となっている。

※ショートステイ～新規入居予定の方が入居体験をかねて1泊2日の利用をはじめて行った。

【10月～12月】

ご家族のご希望（札幌在住）により1号棟の入居者1名、札幌の特養へと転居されている。幸い新規入居希望の方との日程調整がスムーズにいき、なか2日で新規入居できている為可動の大きな減とならずに済んだ。

【1月～3月】

1月に男性1名永眠に伴い新規女性1名入居となる。10日間ほどで調整おこなう。

2月3月は体調不良者による通院入院や1泊2日以上の外泊もなく100%で経過している。

■平成28年度 事業計画ビジョン

「あるがまま」「思いのまま」に…美味しく、楽しく、よく笑い…出会った縁（円）を大切に…なじみの場所で穏やかに…いままでの「当たり前」な生活をおくります。

■重点項目

（1）個別ケアの推進

買い物やなじみの美容室への外出は継続して行えている。

地域行事への参加もご自分たちの好みに応じて市民文化祭や全市音楽発表会などに参加できている。

また、喫茶店へのお出かけや「10月に紅葉見学」、「11月にまどか握り寿司」「12月保育園のお遊戯発表、餅つき」1月に入り「初詣」「獅子舞」等を実施し参加して頂いている。

2月3月は冬期間ということもあり外出が基本的に減る傾向にあるが、外出希望の方への対応として喫茶店への外出やショッピング、夕張高校吹奏楽演奏会に出かけるなどの気分転換の機会づくりをしている。また、運動不足解消に音楽をかけての体操や歩け歩け運動なども継続している。

身体機能は維持されているが認知症の進行により日常動作に支障をきたしている方や、肺炎を併発後からなかなか回復せず、徐々に低下されている方など重度化してきている方々への対応についても適宜ケア会議を開催し検討し、ケアの統一に努めている。

（2）地域コミュニティの形成

地域行事への参加の継続のほかに今回は「餅つき」への町内会の参加を呼び掛け行い、8名の方に参加していただくこととなった。

また、「町内会カラオケ大会」への参加、清光園イルミネーション見学時に宮前町のイルミネーション点灯式への参加のお声掛けをいただくなど少しずつ関係づくりができてきているように感じられる。

3月に実施した夜間想定避難訓練では火災発生時の救出活動の際の役割分担について、地域住民から参加時の活動内容について声を挙げて頂き内容検討し消防への確認作業へとつなげ、救出活動時の地域住民の役割についての見直しをすることができている。

・運営推進会議（2か月に1度開催）

～5月25日 年間行事予定の報告・運営貢献者への感謝状進呈（野菜や果物の寄贈に対し）

～7月27日 8月夏祭り見学・9月敬老会についての協力依頼・職員退職に伴う防火管理者変更報告・新人職員紹介

～9月28日 敬老会報告、新規運営推進委員紹介、新体制に関する説明、活動報告、看取りケアの取り組み報告等

～11月30日 稼働について（看取り開始の報告、転居予定者報告）今年度予定していた畑の土入れと樹木の剪定
延期報告、10月付異動職員挨拶、

～1月25日 稼働について（看取り終了と取り組み内容、新規入居調整）活動報告など

～3月29日 稼働について、介護ロボットの導入、29年度事業継続について、指定更新報告、子供110番活動への参加や地域活動について

・H28年度は運営推進委員の方々の出席率も良く、まどかの運営や活動へのアドバイスや意見も多数頂き、改善につなげるなど情報交換や連携が取れるようになってきている。また、地域ぐるみの取り組みや地域活動への積極的な参加、地域の方々に来ていただける機会など、この会議を通して一歩ずつではあるが地域の方々にまどかを認知していただいていると実感している。

（3）チームケアの確立

看取り対象の入居者の状態変化に合わせて南清水沢診療所、訪問看護とケアについての話し合いの機会を持ち、情報の共有、方向性の確認を行っている。

日々の本人への希望確認や定期的に家族へ状態報告を行い、確認した意向を話し合いの中で共有しケアへ反映を行っている。

また、緊急の入退院時も南清水沢診療所をはじめ、他医療機関ともスムーズに連携をとり対応することができた。

職員間での情報共有としてケアの変更時に写真を活用しての資料づくりや、観察ポイントを伝える、介護技術のレクチャーを行いケア内容の確認を行っている。

看取りケアに取り組んでいた方が9月初めに永眠。ケアの最中は南清水沢診療所立花医師にケアや反応についての報告、訪問看護ナースへの確認や質問を通して観察ポイントや介護技術について学ぶことができた。職員からは勉強になったとの声や、記録の読み返し、共有の大切

さ、またご家族への対応について考える機会となったとの声があり、関わる人みんなで支えるということ意識する機会となったと考える。

12月に入り1号棟にて看取り開始。2号棟で3月末～9月初めに看取りの取り組みをすでに行っていた為、病状は違うが参考にしながら南清水沢診療所、訪問看護への報告連絡を行いながら取り組んでいる。

1月中旬には看取り対応していた入居者様が永眠となる。ご家族が最後の時間を一緒に過ごすことは叶わなかったが、職員が交代で付き添うことができ1人で最期を迎えさせることなく看取る事ができた。ご家族と南清水沢診療所、訪問看護と定期的な連絡、報告を行う事でご本人へのケアについて検討しながら対応していくことができた。

また、他の入居者の体調に関しても密に連携を図り、体調管理ができた成果として下半期は入院者なく経過した。

(4) リスクマネジメントの徹底

9月に入り2件の転倒での整形受診が発生している。

うち1件は骨折となっている。手術対応ではないため痛みへの内服対応と経過観察、ご本人のできることをしていただき、ご本人なりの生活が送れるようにサポートする対応を行っている。

転倒の可能性ありセンサーマットの使用などでご本人の行動に早めに気が付けるようにとの対応行ってきた。他の方の対応前後の様子確認行う事など基本的なことを行う事で少しでも早めに気が付いて対応できるように取り組んでいきたい。

9月の転倒報告の後は継続しての発生なし。しかし認知症の進行に伴い日々の行動の混乱や運動機能の低下のみられる方もあり、注意して観察対応にあたるように情報共有しながら対応していきたい。

9月以降「ヒヤリはっと」はあるが、病院受診となるような転倒等発生せずに転倒事故0で経過することができている。

(5) 稼働率98%以上

4月～長期入院者2名の退所も重なり稼働率が前年比を下回ったが、新規2名の調整により稼働を維持することができた。

5月～緊急で1名入院されるも前年比を上回ることができた。

6月～2名の緊急入院あり退院日予定立たず、ショートステイに繋がらなかった。

7月・8月～1名の方が2回に分けての入院となる。

入院者の期間が長くなるとの連絡を受けて、新規入居予定者の方の体験の機会として1泊のショートステイ調整を行った。

9月～月初めに1名の永眠あり新規入居調整となるが、予定者ご家族との調整がスムーズにいかずの空室ができてしまい稼働低下の要因となった。

10月後半～11月前半にかけて入院1名にて稼働減。その方が戻り看取り対応開始。

12月～年末年始の外泊3名

1月～12月末からの外泊者3名、11月～看取り開始していた男性1名、永眠に伴い女性1名新規入居調整行う。

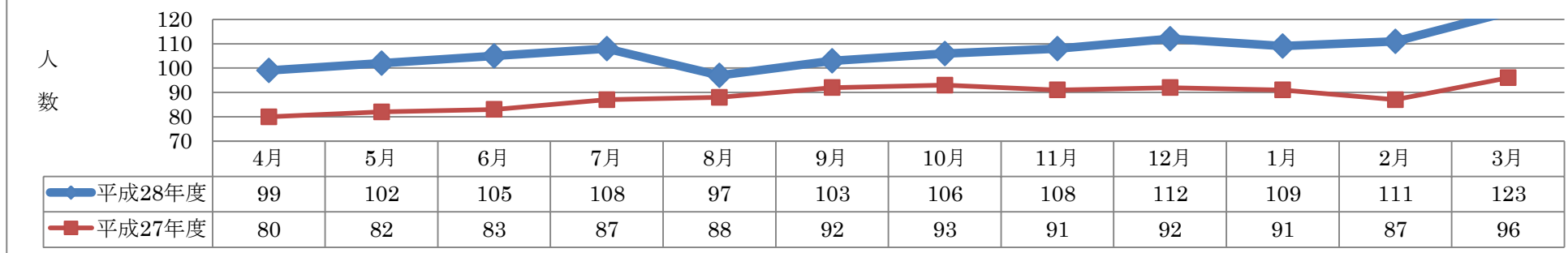
2月・3月～外泊、入院等なく100%の稼働で推移することができた。

H28度入退去者数：入院後他施設への転居（2名） 永眠（看取り対応）（2名） 他施設への転居（1名）

待機者：3名

《清光園居宅介護支援事業所》

要支援を含む利用者数（前年比）



	目 標 値	実 績	達 成 率
居宅介護支援介護料収入（要介護）	16,874,000 円	15,264,470 円	90.4%
平均利用者数（要介護）	99.5 人	89.7 人	91.0%
〃（要支援）	12 人	16.4 人	136.7%

■コメント欄（居宅管理者 佐藤克美）

《目標値の上方修正》

① 平均利用者数（要介護）を、当初の 87 人から 99.75 人に上方修正する。

・（H28 年度実績）新規利用 40 名、入院 55 名、退院 23 名、施設入所 15 名

・第 6 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画では、延べ人数 200 人増を見込んでいる⇒市内のケアマネの数が 15 人なので、ケアマネ 1 人当たりの担当件数 1 人増となる

居宅介護支援	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
給付費	60,442,000	63,466,000	69,469,000
人数	5,100 人	5,304 人	5,712 人



短期目標「一月あたりの利用者数（要介護）を10月までに105人とする」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	Ave.
当初の目標値	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人	87人
修正後の目標値	88人	90人	92人	95人	98人	101人	105人	105人	105人	105人	105人	105人	99.5人
実績（要介護）	88人	90人	91人	91人	83人	86人	87人	90人	94人	90人	89人	99人	89.7人
実績（要支援）	11人	12人	13人	15人	14人	15人	17人	18人	18人	18人	22人	24人	16.7人

- ② 利用者数増を見込み、居宅介護料収入を14,643,000円から16,874,000円に上方修正する。
- ・要介護1～2（10,420円）を利用者数の8割、要介護3～5（13,530円）を利用者数の2割で積算
 - ・初期加算（3,000円）を毎月3名で積算
 - ・事業所加算Ⅲ（3,000円）を算定

《1月～3月の行動計画》

- ・登録はしているが、サービスに繋がらない5名にアプローチ
- ・地域包括支援センター、医療機関へ新規利用者の依頼。
- ・清水沢、南清水沢地区を重点に老人クラブ、民生委員への訪問。
- ・要介護認定更新代行者への継続的な関わり。

■平成 28 年度 事業計画ビジョン

清光園居宅介護支援事業所における事業の適正な運営確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の介護支援専門員が居宅において要介護状態または要支援状態にある高齢者に対し、適切な介護支援及び居宅サービス計画を提供します。

■重点項目

(1) 利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう配慮していきます。

本人、家族の意向を尊重し、自立支援ができるよう介護サービスを適正に計画し、継続的な身体状況の評価を行い、次回サービス計画に反映できるように努めています。

(2) 利用者の心身の状態や置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービスが、多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して行ないます。

月 1 回のモニタリング訪問、サービス担当者会議開催時に本人、家族、他事業所とサービス内容について適切に実施されているか確認をしています。

(3) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、提供する居宅サービス等が特定の種類または特定のサービス提供事業所に不当に偏ることがないように、公平中立に行います。

契約時に重要事項説明書で事業方針や本人・家族にサービス事業所の概要を説明し、選択していただいている。

(4) 市町村、地域包括支援センター、他の居宅介護支援事業所、介護保険施設との連携に努めます。

市直営の地域包括支援センターのため行政としての対応依頼も含め、週 1 回程度来訪し相談・助言を受けている。他ケアマネとの地域の動向や制度等の情報交換や老健、特養と入退去後の在宅支援の調整について連携を密に行っています。介護予防受託料 ¥904,100、介護認定調査委託料 ¥233,280

(5) 相談窓口としての立場の確立

介護の手続きに関する相談、介護事業所の内容や利用方法、地域包括支援センターの新規の依頼、退院後の在宅サービス、介護保険施設入居について 52 件の相談あり、真摯に対応いたしました。給付管理に至らない事例 25 件 移送サービスの手配、専門病棟や介護保険施設の紹介、要介護認定の申請代行、地域包括支援センター職員との同行訪問、介護サービス利用なし。

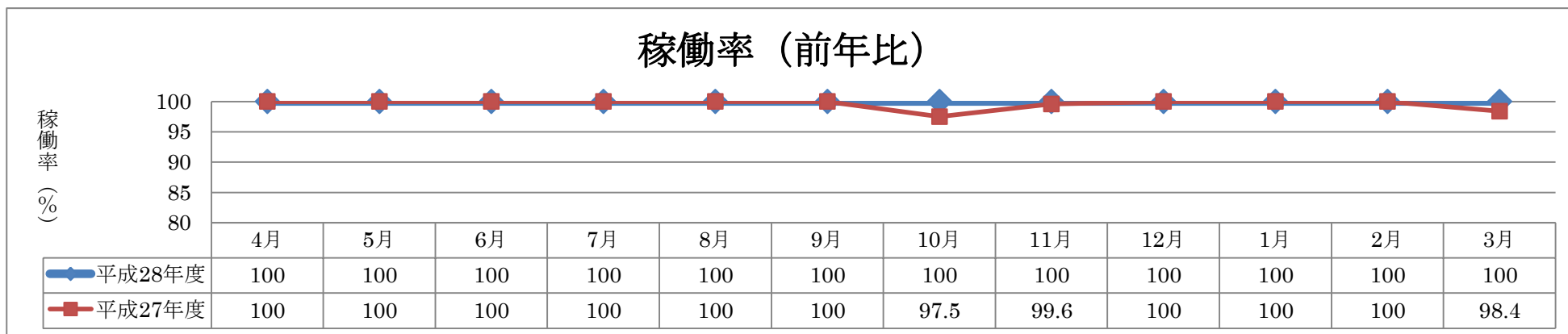
(6) 不安が安心になる対応

夕張市の支援サービス、配食サービス、宅配サービスを必要時に本人、家族に情報提供する。

(7) 介護支援専門員としての姿勢	研修計画に基づき計画的に実施に努めている。内部研修 6 回、外部研修 15 回、地域ケア会議 11 回出席。
(8) 内部での情報共有	担当ケースに変化があった場合は都度 3 名のケアマネで情報共有する。特定事業所加算Ⅲの算定要件である検討会議を概ね週 1 回以上開催しています。法人事業所の居宅担当稼働状況すらん上期 45.3%、下期 36.5%、清光園ショートステイ 37.1%。
(9) 月平均担当要介護利用者数を 102 件、介護予防支援受託数を 12 件とする。	新規利用 40 名、入院 55 名、退院 23 名、施設入所 15 名。要介護者平均 89.7 件、要支援者 16.4 件あり、今年度は要介護者件数目標値を下回る。

《シルバー共同住宅陽光》

稼働率（前年比）



	目標値	実績	達成率
事業収入	16,264,000 円	15,918,240 円	97.87%
平均稼働率	100.00%	100.00%	100.00%

■コメント欄（相談係長 渡辺芳賢）

- ・入居者で入院する方がいたが、退去者は0名で稼働率は100%で経過することができている。
 - ・稼働率100%で経過しているが、食事を常時キャンセルされる方が現在3名おり、目標値の事業収入を下回っている。
- 食事をキャンセルする理由として、①経済的な理由（収入が少ない）②入居者同士の人間関係（推察）③食事のメニューに代わり映えがなく美味しくないからと考察した。
- ① に関しては、今後介入が必要と感じられご本人の資産等を含め、必要に応じて関係機関へ繋ぐ等の相談援助が必要と推察する。
(本人もできなら自炊はしたくないと話されている)
 - ② に関しては、食事の際席位置の見直しを検討する。
 - ③ 食事のサービス向上の為、入居者にアンケートを実地。(18人中14人回答)
その中で食事メニューの代わり映えがない事や味が美味しくないとの回答が、14人中5名あった。今後食事のメニューや味について管理栄養士に相談し、食事のサービスの向上を図っていく。

■平成 28 年度 事業計画ビジョン

要介護状態になっても安心して住み続けられる住まいを目指します。(入居率 100%)

■重点項目

(1) 安否確認・生活相談

- ・ディサービスセンターすずらんの職員連携し、安否確認や生活相談を行っている。(軽微な相談から各種手続きの代行など)
- ・夏季は高温が続いた為、安否確認を強化し入居者の体調確認を随時行い、大きく体調を崩すことなく経過された。

(2) 食事サービス

- ・5/10 桜見学を兼ねた食事会を開催。オードブルやお酒に舌鼓した後カラオケで盛り上がり、入居者は楽しんでいた。今後も季節等に応じた食事会の開催を計画していく。
- ・食事のサービス向上の為、入居者にアンケートを実地。(18人中14人回答)
食事メニューで食べたいと希望があったカレーライスは、管理栄養士やシルバー人材センターへ相談し実現していきたい。
食事の時間帯については、朝食・夕食共に概ね丁度良い時間と回答される。
このアンケートや日々の聞き取りの中で、食事のサービスの向上を図っていく。

(3) 環境整備

入居者のサービス担当者会議に招集されない事がまだある為、ケアマネジャーとの連携をより強化し情報の共有を図っていく。
要介護状態になっても安心して住み続けられる住宅を目指していく。

(4) 地域や人とのつながり

陽光の入居者同士で居酒屋や外食など、入居者同士のつながりが増えてきたと感じる。今後はさらに地域との繋がりを図れるように、コーディネートしていきたい。
清光園秋のふれ愛まつりに陽光から6名参加し、まつりを楽しんでいた。